当院における転倒転落の現状・課題と今後の取組み

Current Situation and Problems of Falls in Our Hospital and Future effort for Fall Accident

〇岩﨑しのぶ[1)]打道京子[1)]万田祥秀[2)]二見信次[2)]

１）周南ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院　看護部

２）周南ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部

【はじめに】

2015 年 4 月から 2017 年 12 月 31 日における、当院で発生した転倒・転落事故の要因をみると、インシデント・アクシデントともに、観察不足・確認不足・注意力不足・把握不足等職員の「意識」に関連するものが上位を占めていた。今回研修の中で職員の観察力・注意力について調査を行った。その結果を踏まえた、現状の課題と今後の取組みについて報告をする。

【研究方法】

１．期間　2018 年 1 月 19 日から同年 2 月 26 日

２．対象　病院職員：182 名

３．調査方法

「階段からの転落防止対策」として

①階段前の扉（8 箇所）に掲示物を貼る

「注意喚起を目的としたポスター」の掲示

②扉を開ける際の安全な範囲を示した踊り場へのマーキング

③１週間ごとのポスターの貼り替えを行う

④貼り替えを継続して行っている期間中に３回の研修を実施

⑤アンケートを実施

【結果】

①ついては約 95%②については約 99%の職員が気づいていたが、③については、約 30%の職員しか気づいていなかった。

掲示物の変化と認知度と、貼り替え回数と関連性を見出すには至らなかった。

【考察】

ほとんどの職員が目の前のものが「見えている」だけで「見よう」とはしていないのではないだろうか、そして「見よう」としない状態、言い換えれば、観察力・注意力が欠如した状態が日常に存在しているのではないだろうかという問題点が浮かび上がった。

病院職員として働くためには「観察力」が必須であるはずだがそこが不足している現状であった。

【今後の課題】

今後の取組みとしては、多職種連携につなげるための長期的な取り組みが必要であると考える。そのために「観察力」を高めるトレーニングとして KYT を全職種に行い、危険認知の感受性を育て危険が存在している医療現場に１人でも「気づく・感じる」ことが出来る職員の育成を行っていく。さらに知識の伝達だけでなく実践にもつながるような取り組みを考えていきたい。